

第14回

# グローバル感染症研究セミナー

2023年7月7日  
16:00-17:00

参加登録はこちら

<https://forms.gle/KPHB4xLx4KoNXheA8>



演者：山本 雅裕 先生

大阪大学微生物病研究所感染病態分野 教授

## 制御性T細胞サブセット・Th1-Tregの 癌免疫と感染免疫における役割について

制御性T細胞（Treg）は特異的なマスター転写因子であるFoxp3を発現するCD4陽性T細胞のサブセットの一つであり、エフェクターCD4陽性T細胞であるTh1, Th2, Th17やTfhの活性化を抑制する。Tregの解析ではFoxp3の遺伝子発現制御下でジフテリアトキシン受容体(DTR)を発現するFoxp3-DTRマウスが広く使用されており、ジフテリアトキシンの投与によりTregを体内から除去することによってエフェクターT細胞の抑制の解除により様々な自己免疫疾患が起きることが報告されている。

Tregには各エフェクターT細胞のマスター転写因子をそれぞれ発現するTh1-Treg, Th2-Treg, Th17-TregやTfh-TregといったTregサブセットが存在するが、Tregサブセットの機能解析はFoxp3-DTRマウスが使用できないためマスター転写因子のノックアウトマウスが使用されているが、表現型は報告によって矛盾したものとなっている。今回、我々はTregサブセットを特異的に標識し除去できるVeDTRマウスの開発に成功し、Th1-Tregの動態や機能を感染免疫や癌免疫といった各種免疫応答での解析を行った結果、Th1-Tregの癌免疫における重要な役割を発見した。

本セミナーでは、VeDTRマウスの開発の経緯やTh1-Tregを標的とした新規癌免疫療法の可能性について概説する。

世話人 小林 隆志

(医学部感染予防医学講座 教授、グローバル感染症研究センター兼任)

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター総務係 (5409)

TEL 097 (586) 5409 E-mail [glocal@oita-u.ac.jp](mailto:glocal@oita-u.ac.jp)